

総合メディア基盤センターの新システム

総合メディア基盤センター情報基盤部門 井町 智彦

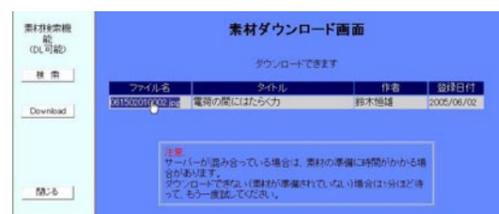


図 11 ダウンロード画面

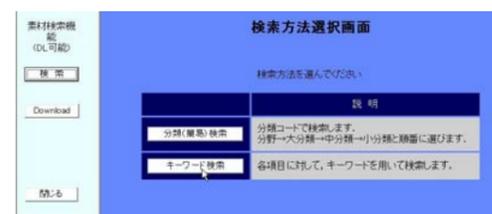


図 13 検索方法選択

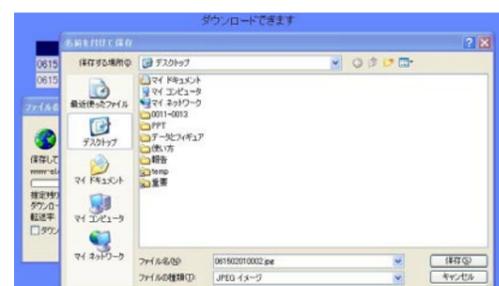


図 12 名前を付けて保存



図 14 キーワード検索画面



図 15 検索結果表示 (ファイル一覧)

のような画面が現れます。ここで、ファイル名にカーソルを合わせます。[右クリック]して[対象をファイルに保存]で、図 12 のような画面が現れます。ここで、適当なファイル名、適当な保存場所を選べば保存できます。

3.2 キーワード検索

次に、キーワード検索を試みましょう。ログインしたあとに現れる検索方法選択画面(図 13)で、キーワード検索を選択します。

図 14 のようなキーワード検索画面が現れるので、検索したい項目をうめます。下の例では、ファイルタイプ jpg で検索します。

『検索』ボタンをクリックすると、検索結果が現れます(図 15)。この画面から先、予約、情報の閲覧、ダウンロードは分類検索の場合と同じです。

4. まとめと今後の展望

本学が 2004 年度から行っている現代 GP のプロジェクトにはたくさんの方に参加していただきました。おかげさまで、これまでに 8,000 件以上の素材の登録がなされています。これだけ貯まった素材を皆さまに利用していただきたいと思い、今回は主に素材のダウンロードについて説明しました。データベースの安全性などについては、昨年の広報や下記の参考などを読んでいただきたいと思います。

この素材再利用システムは、大学内で作成された教材・素材を管理・再利用することを目的としてシステムを開発しました。しかし、現システムはみなさん作られた大切な教材を安全に保護することに力点をいたたために、ユーザの使い勝手という点では、まだまだ改良の余地があります。また、図書館の KURA など学内データベースとの連携を取る必要も今後出てくる可能性もあります。これらの点については、今後とも改良を進めたいと考えておりますが、まずは、皆さんに一度使っていただいて、教材作成にお役立っていただきたいと思います。

参考

- ・高田 良宏, 笠原 禎也, 佐藤 正英, 鈴木 恒雄, 松本 豊司, 森 祥寛, e-Learning 素材管理・再利用システムの開発, コンピュータ & エデュケーション, Vol.20, pp.68-73, 2006.6

問い合わせ等

- ・利用方法または教材作成支援に関する質問・相談
E-mail:lit-sozai@el.kanazawa-u.ac.jp
- ・システムに関する質問・相談
E-mail:dbadmin@gipc.kanazawa-u.ac.jp

◇ 総合メディア基盤センターのシステムが新しくなります ◇

現在の総合メディア基盤センターコンピュータシステムは、2001 年より 5 年間に渡り運用されて来ましたが、2007 年 4 月 1 日より新規システムに更新されます。新規システムにおいては、計算サーバ、ファイルサーバ、ネットワーク系各種サーバ、実習室パソコン等の更新に加え、新規全学サービスとして「金沢大学統合アカウントサービス」の運用が開始されます。また、2006 年度より開始されたノートパソコン必携化によるカリキュラム変更に伴い、総合メディア基盤センター内実習室の編成が変更されます。

この記事では、新しい総合メディア基盤センターコンピュータシステムと、新しい実習室利用方法について紹介します。

■ 金沢大学統合アカウントサービスの開始

学内の各種サービスが電子化され、コンピュータとネットワークを利用するものが増加しています。これにより各種手続き等が大変便利になったのですが、一方で、各自が管理すべき利用者 ID とパスワードが増加の一途を辿り、管理が煩雑になってきています。また、システムを管理する側にとっても、同一人物の ID をシステム毎にそれぞれ登録・管理する事は効率がよくありません。

この状況に対する解決策の一つとして、総合メディア基盤センターでは「金沢大学統合アカウントサービス(KAINS-IAS: KAINS Integrated Account Service)」の提供を開始いたします。このシステムは、当センターが管理する認証サーバ(LDAP, ActiveDirectory)を希望する部

局に対して開放し、当センターが管理する利用者 ID でユーザ認証が行えるようにするものです。これにより、利用部局においては利用者情報を自分で登録・管理する必要がなくなり、また利用者が自分のパスワードを変更する場合も、一度の変更があらゆるシステムに反映されるようになります。特定の学部の構成員のみを対象にしたいような場合には、ユーザをグループ管理することができ、グループの編成については当センターから管理を委任し、利用部局が自ら管理することが可能です。認証に使用できる利用者 ID には、教職員・学生が自ら登録する「ネットワーク ID」と、実習室での授業用 ID など用途に応じて当センターが発行する「コンテンツ ID」の 2 種類があります。

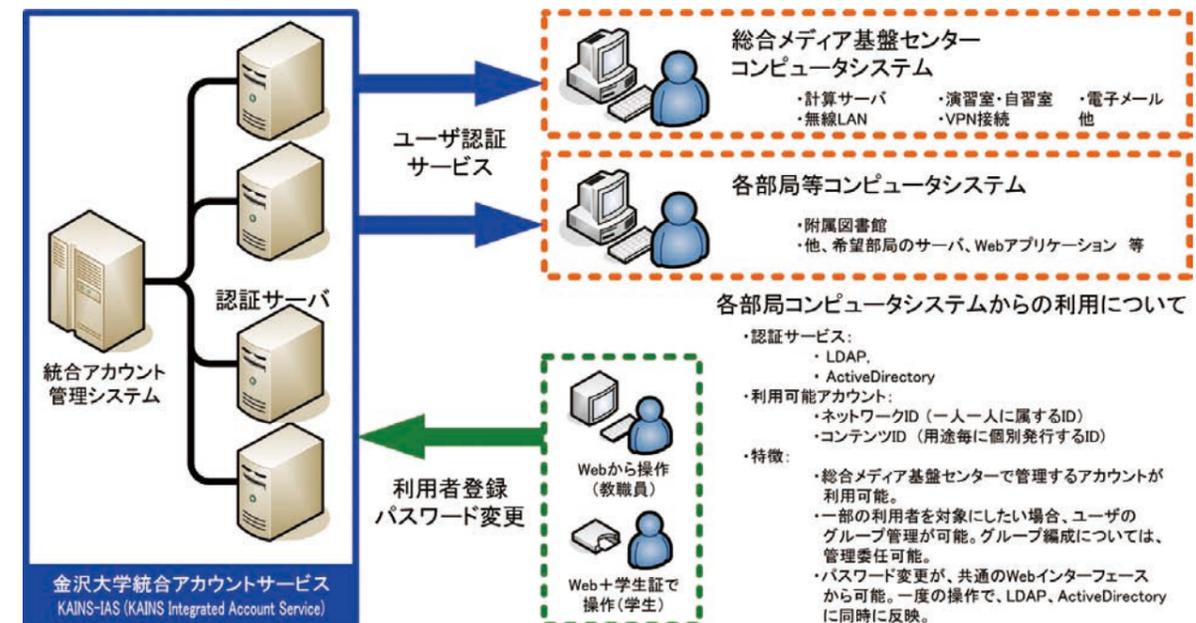


図 1 金沢大学統合アカウントサービス (KAINS-IAS: KAINS Integrated Account Service)